様式4

学 校 番 号
93

令和 5 年度　学校評価書(学校運営協議会用）計画段階

福岡県立　　筑豊高等　学校

自己評価

学校運営計画（4月）		評価（総合）
学校運営方針	スクールミッション 「予測困難な時代を逞しく生き抜く人材を育成し、社会をリードする学校」 ・各種検定試験における資格取得や実践的教育活動を通して社会人基礎力を身に付け、卒業後は即戦力・即社会人としての資質を持った生徒を育成します。 ・専門的な学びを生かし、地域の各イベントにおける商品販売やファッションショー、直方市との協働事業「子育てサロン」の開設や幼小高交流活動など、地域産業界、自治体、異校種間と連携した教育活動を展開することで地域社会へ貢献できる商業と家庭分野の専門家を育成します。 （1）あきらめず最後までやり通す、学ぶ意欲の高い人材（知） （2）礼儀を重んじ、相手を思いやる豊かな心をもった人材（徳） （3）困難なことにも忍耐強く挑戦する体力と、くじけない心をもった人材（体） （4）地域社会を支え、地域社会に貢献できる人材（地域創生）	

昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標
本校は創立１１５年目を迎え、卒業生総数２８，０７５名を誇る筑豊地区唯一の専門高校である。入学時から「社会に出るための力を身に付けること」を目標として、教室での学習と共に様々な体験活動を多く取り入れた「実学」重視の学習により、卒業後は地域社会を支え、地域社会に貢献できる（地域創生）人財となるべく教育活動を推進している。しかし、筑豊地区の県立高校においては令和時代に入り、更に入学者が定員に満たない現状に拍車がかかっている。私立高校も実質授業料無償化となり、経済的な面で大きな魅力があった県立高校も昔とは異なった私立高校との構図が成り立っている。その上、交通の便が悪い筑豊地区においては私立高校のスクールバスの運用や教育環境設備の充実といった物理的な面においても私立高校の魅力として生徒募集に影響を与えていることが想像できる。 それでは、いかに本校の特色化や魅力化を「選ばれる県立高校」として発信し、積み上げていくのか、学校再編等も話題になる中、生き残りをかけて取り組んでいくことは、本校を選んで入学してきた生徒が卒業する時に「筑豊高校に来てよかった」と涙と笑顔で卒業していく姿、そして、全員第一希望進路の実現を全職員のミッションとして、学校満足度の高い教育活動を粛々と展開していく他ないと考える。１０年後、２０年後も「筑豊高校ここにあり」と地域社会から必要とされ、信頼される学校であるためにも全職員で力を合わせ、本年度の「学校経営方針」の具現化と本校の更なる魅力化、特色化を推進していく。	１．安心・安全な学校づくり「生徒と職員の命を守る危機管理」	・集会やホームルーム及び研修等を通じて、登下校、通勤時や教育環境及び教育活動におけるリスクをマネジメントできる生徒と職員の危機管理体制を構築する。また、多様な教育活動から生徒相互の理解と尊重を促し、生徒一人ひとりが安心・安全で居場所のある学校を作るため、多様性を認め合い、自他の人権を守ろうとする実践力・人権感覚を育成する。そして特別な支援を要する生徒や不登校等の生徒への手厚い指導をＳＣ・ＳＳＷと連携し、誰一人取り残さない個別最適な生徒指導を推進することによって、転退学のない信頼される学校づくりに努める。
	２．ワークライフバランスのとれた働き方の実現「職員の健康&風通しのよい職場」	・教職員一人ひとりが生徒と向き合える時間を確保し、やりがいと充実感をもって教育活動に取り組めるよう、行事や業務の精選、業務量の平準化、外部専門家の活用、組織での対応等を推進し、週休日には心と身体を休める時間を確保する。また、管理職や各部課長のリーダーシップのもと、「チーム筑豊」として風通しのよい職場環境づくりに努める。
	３．基礎学力の定着「主体的に学ぶ意欲の育成を目指した観点別評価の有効活用」	・観点別評価を有効に活用し、生徒の学びに向かう主体性を育成する。主体性を基軸として基礎的・基本的な学力の定着を図り、ＩＣＴの活用や習熟度、ＴＴ、ＡＬ型授業などを手段とした授業改善に取り組む。また、教科内連携による指導法の共有や専門研修及び公開授業等を活用した教職員のスキルアップを図り、個別最適な学びと協働的な学びを推進する。
	４．鍛えて､ほめて､生徒の可能性を伸ばす教育活動の実践「筑豊プライドの醸成」	・各科の特色ある取組や学校行事、生徒会活動、部活動及びボランティア活動等を通して、自己有用感や自尊感情、コミュニケーション能力及びチャレンジ精神を育成し、鍛えてほめることにより生じる自己肯定感や達成感を味わせ、筑豊高校生としての帰属意識を涵養する。
	５．キャリア教育､職業教育の充実「オープンキャンパスやインターンシップへの積極的参加」	・自己の進路を切り拓くキャリア教育と職業教育を充実させ、成年年齢引き下げの自覚のもと社会生活に主体的に参加する態度と能力を育成するとともに、第１希望進路の実現を目指す。また、３年間の計画的、継続的なキャリア教育と職業教育を展開し、オープンキャンパスやインターンシップ及び応募前職場見学等に積極的に参加する生徒を育成する。
	６．実践的､体験的な教育活動の推進「地域貢献活動への積極的参加」	・コミュニティ・スクール初年度として、専門教育や産業教育を活用した「実学の筑豊」をアピールすべく地域創生をテーマに、本校の専門性を活かした地域社会への貢献活動を行い、地域に密着した学校づくりを行う。地域連携についてはできる事とできない事を精選し、職員のワークライフバランスの取れた働き方とリンクできるように留意する。
	７．積極的な情報発信「広報活動の充実」	・募集定員の確保を目標として、１年間を通して計画的、合理的な中学校訪問やオープンスクールを実施する。また、学校ホームページやＳＮＳを活用した広報活動を充実させ、専門高校としての魅力や特色を様々な場面で発信していく。

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価（3月）			次年度の主な課題
学事部 教務 情報研修	基礎学力の定着及び主体的に学ぶ意欲の育成に向けた観点別評価の研究	各教科に各科目の年間指導計画とともに学期毎の評価シート（１、２年生）を提出してもらう。				
		年度当初に、１年生の学年集会で教務からの成績評価の説明を行う。また全学年、全科目において授業で授業担当者からの成績評価について説明を行ってもらう。				
		各学期の成績を統計的に分析し、次年度の評価について研究する。				
	統合型校務支援システムの活用による業務量の軽減	担任によるの出欠入力（週末に確定）と教科担任による欠課の入力（週の始まりに確定・確認）の徹底し、ピンクカードとグリーンカードの廃止。				
		校務支援システムへの部活動の部員登録と公欠入力の活用を活用する。				
	欠席数、遅刻数、転退学数の抑制	校務支援システムに入力された出欠と欠課の情報を用いた欠席・遅刻、欠課時数の情報を共有する。				
		欠席、遅刻、欠課の状況で各学年や関係部署と連携して指導を行う。				
	職員研修・相互授業訪問期間の充実	ＩＣＴに関する研修会を全体で３回実施し、希望者を募った研修会も企画・実施する。				
		相互授業訪問期間を実施し、各自の授業改善につなげる。				
		授業訪問シートを活用し、授業改善のための情報共有を行う。				
	読書活動活性化・図書室利用者数増加	図書委員会による読書活動の推進活動を、図書だよりや校内放送等を活用して実施する。				
		落ち着いて読書をする時間を設けるため、朝の５分間読書を実施する。				
		多読チャレンジコンテストを実施し、図書室利用者増加につなげる。				
	生徒・職員のＩＣＴ活用推進	職員研修でChromebookを活用し、授業等での使用に役立てる。				
		GoogleClassroomを授業用・緊急連絡用に整備して活用する。				
		職員間における業務連絡等に学校ポータルサイトを積極的に活用できるよう整備する。				
学事部 企画･広報	広報活動の充実 （志願者増加への本校情報発信の強化）	学校ホームページの更新の頻度を上げ、コンテンツについて見直しを実施する。				
		ＳＮＳについて更新頻度を上げ、様々な取り組みを各分掌・学科・部活動と協力し充実させる。				
		２回実施の体験入学や個別の体験入学の受け入れを充実させ、魅力を発信する。 学校案内や学校地図チラシを充実させ、中学校へ提供する。				
	働き方改革を意識した、業務の精選と効率化を図る	課内での業務分担を明確化し、業務内容の精選を行う。会議を適時行い、業務進捗を共有し滞りのない業務を行う。				
		各分掌・学年等と連携を強化し、業務内容を分担化する。				
	地域とともにある学校づくりの推進	体験入学等では地域の方や保護者を取り込んだ内容を実施する。				
		プレスリリースを今年度以上に発信し、取材等の受け入れの強化を図る。				
		地域学校協働活動において本校の特色ある取り組みをまとめ、外部との協力体制を強化する。				

学校関係者評価

評価（総合）	自己評価は Ａ ： 適切である Ｂ ： 概ね適切である Ｃ ： やや適切である Ｄ ： 不適切である

項目ごとの評価	学校運営協議会からの意見

生徒育成部 生徒指導 保健厚生	情報共有及び各部等との連携による生徒指導力の向上	規範意識（校則を守る、時間を守る等）の確立による問題行動の未然防止のために、関係分掌との連携を図る。					
		校則違反者等に対する指導において、その反省はもとより再発防止の視点に立ったきめ細かい指導を図る。					
		様々な事案に対して、迅速・正確・丁寧な指導を行うことで統一化を図り、すべての生徒に対して平等な指導を行える環境を整える。					
	学校行事の活性化	生徒達が何事にも挑戦し、より一層帰属意識を高めるために生徒一人一人が活躍できる環境を整える。					
		新たな伝統を築き、継承していくために、最上級生を中心に学校行事（ブロックマッチ）を実施する。					
		生徒会（執行委員会、専門委員会、特別委員会）が中心となって生徒主導で行事を行う。					
	生徒会活動の充実	生徒の意欲、関心の向上を図るために、生徒会活動や部活動の結果報告等の広報活動を充実させる。					
		本校ならではの広報活動（筑豊高校公式キャラクター等）を展開して、筑豊高校の魅力を伝える取り組みを創意工夫して行う。					
		生徒会執行委員の会議や研修を行い、学校を牽引するリーダーとしての自覚を与える指導を行う。					
	清掃活動に対する意識の向上と環境美化の徹底	毎日の清掃活動への取り組みを向上させる。					
		校内美化に対する意識の向上を図る。					
		必要な清掃用具を揃え、快適に清掃できるようにする。					
	食堂との連携を図り、食育の向上とともに健康増進の強化	「食堂のメニュー表」を全クラスに掲示し、食事への興味関心を持たせ、健康でいることの重要性を図る。					
		食堂の職員巡回を行い、感染症対策を徹底する。					
		保健便り等を用いて、調理師の紹介や食育に関する内容について情報提供する。					
	保健・美化委員会活動の活性化の推進	健康診断補助などの保健活動やブロックマッチでの救護活動、文化祭での展示発表を通して、保健委員会活動の活性化を図る。					
		キャンパスクリーンアップや清掃活動を通して、美化委員会活動の活性化を図る。					
生徒育成部 修学	生徒および教員が安心安全な居場所としての学校の確立	生徒情報の集約に努め、生徒情報交換会や教育相談委員会で検討された内容を全職員で認識共有し、ホームルーム活動、集会等を通じて、いじめや差別の予防と早期発見体制を確立する。					
		生徒の人権感覚の醸成とともに生徒と関わる教員自身が人権感覚を意識し、不快語・差別語に気づき、学習活動における発言・態度に十分留意し、意識の見直しを行う。					
		学年団と連携し、職員同士が相談しやすい環境、また、日々の学校生活における生徒の関わり方についてのサポートを行う。					
		毎月のアンケートを活用し、生徒と十分に面談を行い、人間関係や安心感の構築を行う。また、長期休業明け個人面談の情報を収集し、問題解決へのサポートを行う。					
	就学・修学保障、進路保障の充実	経済的に就・修学が困難な状況にある家庭に対して、担任・学年主任等と連携をとり、経済的負担軽減につながるために関係部署と連携を行う。また奨学金などの情報提供、手続きやサポート等を行い、生徒の学習環境充実を図る。					
		欠席者が続く生徒に関しては、担任・学年主任等から情報収集を行い、必要に応じて一緒に家庭訪問を行う。不登校や問題行動生徒に対しては、その経過や背景について、担任。学年主任等と連携や協議を行い、面談を行うとともに問題解決に努める。					
		担任・学年主任等と連携をとり、生徒の状況等を考慮した上で、転・退学者数を最小限に抑える。					
	特別な支援を要する生徒への支援	全職員が気になる生徒の情報を広く収集し、特別支援コーディネーター、スクールカウンセラー、養護教諭等と十分な連携を図り生徒支援を行う。					
		教育相談委員会に十分な情報提供、情報交換を行い、組織的に生徒の支援へと繋げる。					
		身体的支援、学力支援の情報収集を密に行い、当該生徒に関しての合理的配慮について検討、実施を行う。					
キャリア教育 就職 進学	キャリア教育の推進 （社会的・職業的自立に向け基盤となる能力や態度の育成）	日常的マナー（身だしなみ・挨拶・言葉遣い等）や学校生活（出欠・成績・部活動等）に対する意識の向上を促し、性格を磨き人間的魅力を高める。（信頼される人間づくり）					
		専門高校としての武器となる資格取得を目標に積極的に検定課外の受講を促す。（卒業後のスキルアップ・生涯学習への意識付けを行う）					
		学年固定の体系的学習（最新新聞記事のワークシート・最新注目ニュースの閲読・進路ノート作成・作文等）					
	就職指導の充実 （進路意識の向上、職業観の育成）	進路学習を実施する。（講話・企業見学・職業体験・面接指導・適性検査・就職関係模試）					
		学年と連携し、インターンシップを実施する。（職業観・人生観の醸成）					
		企業訪問を実施する。（卒業生の近況把握・求人動向・企業の情報収集・信頼関係の構築） 社内見学や合同企業説明会等に積極的に参加する。（求人開拓、本校のＰＲ） 職業安定所と情報を共有し、就職支援を強化する。					
	進学指導の充実 （将来の職業を見据えた進路指導・基礎学力の定着）	進学学習の充実（進路先説明会、分野別ガイダンス、小論文指導、英単語学習等）					
		学年と連携して、オープンキャンパスや学校説明会に参加をさせる。（各学校のアドミッションポリシーを知り、自分の目標と比較検討をさせる）					
		日本学生支援機構奨学金を含めた進学支援体制の充実を図る。（奨学金制度の正確な情報提供で選択肢の幅を広げる）					

総合 ﾋﾞｼﾞﾈｽ科 ﾋﾞｼﾞﾈｽ 情報科	基礎学力の定着及び３年間を通した実学教育の充実	生徒個々の習熟に応じた柔軟な学習形態を展開し、理解を深め、３年間を通した実学重視の教育活動において、生徒の潜在能力を最大限に引き出す。					
		ＩＣＴ教材の充実とともに、大型提示装置、タブレット等のＩＣＴ機器の積極的活用やアクティブラーニング等を導入し、よりわかる授業を行う。					
		直接体験を盛り込んだ実践的な教材（機会）を準備し、実学を身に付けさせ、地域や社会において即戦力となり、将来地域社会をけん引できる人材を育成する。					
	充実した教育環境（計画的かつ豊富な教育プログラム）づくり	基礎科目を重視し、基礎・基本を身につけさせる。その力を可視化（資格取得・豆テスト等）することで①定着度の確認、②生徒の自身のモチベーション向上、③商業科の生徒としての誇りと自信を認識（自己肯定感）、引いては④希望進路実現に繋げる。					
		起業家育成プログラムを昨年から実施している。３年間を通してのプログラムに社会人招聘事業による講義やグループ協議等を多く取り入れ、経営者視点や知識・技術の育成を図る。また、科目担当教員の科目間連携を図りながら効果的な指導の充実を図る。					
		専門科目の特性に沿った観点別評価基準を作成し、生徒の伸長を促す評価を考え、担当者間で意志統一しながら随時改善していく。また、生徒が安心して学べる環境を整える。					
	地域貢献活動の推進および積極的な情報発信	行事や学習内容等の特色ある取り組みを周知するため、「課題研究」に広報班を立ち上げ、積極的な広報活動（中学校訪問や地域イベント参加やＨＰ掲載等）を行う。					
		直方市、地元企業、地域各団体や住民の方々と連携する。特に「課題研究」地域創生班、販売実習班、商業科係、地域の活性化に積極的に参加し、商品開発班や起業家研究班、職業資格の探究班は地域の御協力を得て学びを深め、地域から愛され期待される人材を育成する。					
		日頃から職員間のコミュケーションを図り、各分掌との連携を図る。特に文化祭や課題研究生徒実践発表会においては、早期に情報共有を行う（報告・連絡・相談）。また、商業科内においては、行事等の企画・運営や各種イベント参加に伴う負担を軽減するため、仕事量の平準化や協力体制を整える。					
生活 ﾃﾞｻﾞｲﾝ科	基礎・基本を重視した教科指導	科目の指導目標・内容を明確にし、科目・教科間の連携を取り入れた指導の充実を図る。					
		家庭科技術検定等、各種検定への取り組みに当たり、専門科目の指導計画と学科活動を連動させながら、知識・技術の定着を図る。					
		専門科目の中で、特に実習科目の観点別評価基準を作成し指導計画に対応させる。					
	専門学科としての特色ある教育活動の強化・深化	社会人招聘事業を効果的に活用するためにも、年間指導計画において時期や目的を明確にする。					
		校外研修を学年別専門科目の教育目標やキャリア教育と関連づけ充実させるとともに、地域イベントへ参加する生徒が主体的な活動となるように支援する。					
		文化的行事では各グループ（被服・保育・食物）活動を充実させるとともにリーダーの育成を図る。					
	地域（幼・小・中学校含）への広報活動の充実	学校訪問・出前授業・学校説明会等に、積極的に参加するとともに、学科紹介プリントなども作成する。					
		ホームページを充実させて、特色ある教育活動等、学科の活動に関する情報を積極的に発信する。					
		各種地域イベント等に参加することで、学習成果発表の場を設定するとともに企業等との協働活動をさらに発展させる。					

第1学年	帰属意識と規範意識の醸成	校訓や本校の教育活動、集団生活の在り方を理解させることで、３年後の自分を見据え高校生活での学びの目的を明確にさせる。				
		学校のルールを周知させ、集団生活で必要な態度と姿勢、社会人としてのマナーを育成する。				
		コミュニケーション能力や協調性の大切さを感じさせ、自己肯定感を育み、他者を受容する態度を育成する。				
	自己理解と学びに向かう態度の育成	５分学習を活用し、自発的に学習する環境を整備し、継続的に学ぶ意欲を持たせる。				
		統一学習課題を活用し、社会情勢に目を向けさせ、社会の変化に興味・関心を持たせ高校生としての教養を育ませる。				
		多くの生徒に活躍の場を設け、主体的に自己を発揮しながら学びに向かう態度を育成する。				
	自己管理能力、他者を尊重し協働する姿勢の伸長	時間感覚を身に付けさせるために、５分前行動を徹底させ、見通しをたてた行動を実践させる。				
		情報を自ら収集・整理する能力を育成するとともに、過ごしやすい学校生活環境を形成させる。				
		元気の良い挨拶と、正しい言葉遣いを徹底させることで、他者に対する敬意と感謝の気持ちを育成する。				
第2学年	筑豊高校生としての自覚を持ち、社会生活（卒業後）への継続	挨拶や言葉遣いを中心に礼儀の大切さを理解させ、歴史ある筑豊高校の生徒である自覚と誇りを持たせる。				
		日々の出欠の重みを認識させ、社会生活（卒業後）に通じる姿勢を育む。				
		集団生活における校則の意義や意図を理解させ、敬意や感謝の気持ちといった「お陰様」の精神を育む。				
	中核学年としてふさわしい態度を養い、次年度を見据えた意識を育む。	学校行事や地域の校外活動を通して、協調性やリーダー性、主体性を育む。				
		話を聞く姿勢を徹底させるとともに、「理解＝行動する」という認識を徹底する。				
		日々の授業や学校生活において、規律ある行動を徹底し、信頼のある生徒になる。				
	キャリア教育の充実と希望進路の決定	キャリア教育部と連携し、計画的なキャリア教育を行い、進路意識の向上を図る。				
		インターンシップやオープンキャンパスを体験させることで、希望進路の決定に結びつけさせる。				
		様々な資格取得への挑戦を推進し、自己実現に近づくよう支援していく。				
第3学年	生徒の適性に応じた希望進路の実現	必要に応じて個人面談を実施し、様々な視点から生徒の適性を把握する				
		キャリア教育部と連携し、進路設計を行うために必要な情報の提供を適宜行う				
		具体的な進路目標を早期に決定させ、その実現に向けて、効果的、能動的に取り組ませる				
	最上級生として学校行事を牽引する強い心の育成	常に自己管理に関する指導を行うことで、精神面と肉体面の健康を促す				
		学校行事の企画運営に参加させ、意欲的に取り組ませることで、計画力や責任感、リーダーとしての資質を育成する				
		行事を通じて、失敗を恐れずに何事にも「挑戦・突破」したいという強い精神力の涵養を促す				
	他者の生き方、考え方を認め、自他を尊重しあう心の醸成	自己と他者を顧み、尊重し合うことで、望ましい人間関係の構築を図る				
		集団の中での自己の役割を理解し、互いを尊重した対話ができる環境を形成する能力を育成する				
		安心・安全な学校生活を保障するため、学年団全員で情報を共有し、生徒の小さな変化を見逃さず、多面的な支援を行う				

自己評価及び学校運営協議会評価を踏まえた今後の改善策

・

評価項目以外のものに関する意見